

フリースクール存続と さらなる向上を目指して

千葉県内で 2007 年に始まったシュタイナー教育にもとづく学園は、困難と向き合いながらフリースクールとして、子どもたちの居場所を守り続けています。幼児には幼稚園や小学校を選ぶことはできません。子どもたちが受ける初めての教育を選ぶのは大人なのです。

<どうしてこの場所を？>

周囲に大人が理想とする教育現場が既存の施設に見当たらず、それならば、と作り上げたのが千の葉学園です。最初は「長南町にシュタイナー教育の場を作りましょう」という方のもとに、協力者・親子が集まりました。その一部が千の葉学園として残り、現在に至っています。

シュタイナー教育と聞くと「カーテンで締め切られた空間で静かに遊ぶイメージ」が大きいかもしれませんが、千の葉学園は違います。子どもたちは自然物に敬意を払いますし、計算するときにどんぐりを数えたかったら、山に探しに行くでしょう。学園の裏には保護者の手で整備された庭が広がり、焚き火も体験できます。時に裏庭を駆け回することは、心も体も成長し続ける子どもたちにとって楽しいひとときでしょう。

<子どもの居場所の存続>

3・11 東日本大震災の後は、様々な理由で先生や児童たちが激減し、運営も難しくなり、積極的な募集はできませんでした。

ところがその後、自然に入学・編入希望者が集まってきたそうです。子どもの居場所を、思いを込めて探し当てた保護者が、遠い例では片道一時間半かけて送迎しています。一人ひとり違う個性を持った子どもたち。「この地にこの学園は必要なのだ」と賛同する大人が集まってきています。

1 クラスの人数がたかさんでないこと、6 学年に対して担任の先生が 4 人であることは課題の一つです。そうした教育的な課題は教員会議で話されますが、学校の運営は保護者・教員が毎週の運営会議で話し合っ作られています。学校法人でないために私学補助金がなく学園の運営は厳しいようです。それでも、学園の活動は少しずつ認められ、地域によっては在籍校の校長先生が子どもに会いに来てくれたり、たった一人の卒業式を催してくれたり、社会も動き始めています。

ここを存続していこうとする方々の原動力は様々ですが、現状維持+ α を目指して活動を続ける学園を応援したいと思います。

ライターチーム 阪本 貴子

